

扱い易さと高性能を両立 「Ninja 500」 「Z500」

Building High Performance with Ease of Handling: Ninja 500 and Z500



扱い易さ・高性能を両立させたモデルとして市場で広く受け入れられている「Ninja 400」「Z400」に対して、カテゴリ内での優位性をさらに強化するべく、エンジン排気量をアップ、意匠および装備面のアップデートなどの商品改良を行い、商品力向上に繋げる開発を行った。低中速域を重視したエンジン性能の向上および新型フルLCDメータによる商品性向上、「Z500」においては新型LEDヘッドライトを採用して小型化による意匠性向上と夜間視認性向上の両立を達成した。

まえがき

当社は、本モデルの系譜として、2008年に世界戦略車として「Ninja 250R」を市場に投入して以来、排気量を上げつつ本カテゴリーのマーケットリーダーとして市場をけん引してきたが、競合他社も特色のある新モデルを市場に投入してきており、シェア競争がより一層激しくなっている。

1 目的

扱い易さ・高性能を両立させたモデルとして市場で広く受け入れられている「Ninja 400」「Z400」に対して、カテゴリ内での優位性をさらに強化するべく、エンジン排気量をアップすることによりカスタマーにさらなる価値を提供し、また意匠および装備面のアップデートを行うことで、商品力向上に繋げる開発を行う。

2 仕様

エンジンはストロークアップによる排気量アップを実施し、出力制限のないフルパワー（以後FP）仕様と、出力制限のある欧州向けのA2ライセンス（以後A2）仕様とした。

今回開発した「Ninja 500」「Z500」と従来モデルである「Ninja 400」「Z400」の主要諸元の比較を表1に示す。車体関連諸元については好評である従来モデルを踏襲している。

3 特長

(1) エンジン性能

メインカスタマーであるエントリー層にさらなる「Ease of Riding」を感じてもらうべく、扱い易さに配慮した排気量アップという視点で、一般道や高速道路といった走行シチュエーションでの余裕を持った加速を想定し、低・中速

表1 従来モデルとの主要諸元比較

Table 1 Comparisons of principal specifications with previous models

項目	機種	「Ninja 500」 FP仕様	'23 「Ninja 400」 FP仕様
エンジン形式		4サイクル水冷 並列2気筒 DOHC 4バルブ	←
排気量 [cm ³]		451	399
ボア×ストローク [mm×mm]		70.0×58.6	70.0×51.8
ベンチ最高出力 [kW]		38.3 / 10,000 min ⁻¹	35.0 / 10,000 min ⁻¹
ベンチ最大トルク [N・m]		42.6 / 7,500 min ⁻¹	37.0 / 8,000 min ⁻¹
シート高 [mm]		785	785
車両質量 [kg]		171	168

項目	機種	「Z500」 A2仕様	'23 「Z400」 A2仕様
エンジン形式		4サイクル水冷 並列2気筒 DOHC 4バルブ	←
排気量 [cm ³]		451	399
ボア×ストローク [mm×mm]		70.0×58.6	70.0×51.8
ベンチ最高出力 [kW]		33.4 / 9,000 min ⁻¹	33.4 / 10,000 min ⁻¹
ベンチ最大トルク [N・m]		42.6 / 6,000 min ⁻¹	37.0 / 8,000 min ⁻¹
シート高 [mm]		785	785
車両質量 [kg]		167	167

域のパワーフィーリング向上に重点を置いた開発を行った。

(i) FP仕様

図1(a)に示すように、出力・トルクは全域で「Ninja 400」を上回り、加速性能の向上を実現した。燃費については「Ninja 400」同等を確保した。

(ii) A2仕様

出力規制がある中で、より低・中速域での性能向上を狙い開発を行った。図1(b)に示すように、低回転域から出力ピークにかけて「Z400」を上回る出力特性とし、常用域での扱いやすさをさらに向上させた。WMTC燃費で「Z400」の25.5km/Lから「Z500」の26.2km/Lと向上した。

(2) メータ・灯火器

「刺激的でワンランク上」をキーワードとし、メータ・灯火器類も含めて意匠外観のアップデートを行った。

本モデルはSTD (Standard) 仕様のメータ図2(a)・テールランプおよび「Z500」のヘッドランプは今回新規開発を行った。またSE (Special Edition) 仕様にはTFTメータ図2(b)を搭載することで商品力・視認性を向上させた。さらにスマートフォン連携機能を新たに搭載してユーザーの利便性を高めている。

(i) メータ

STD仕様のメータとしては、新型高精細・高コントラストのIBN (Improved Black Nematic) 液晶メータを開発して商品力を向上させた(当社モデルとして初採用)。

(ii) ヘッドランプ「Z500」

開発初期段階から、設計・評価ライダー・デザイン・取引先にて「小型化と明るさの両立」という目標を掲げ、共通認識の下で造り込みを行った結果、意匠レイアウト上優位となるコンパクト化と、図3に示すような夜間視認性向上の両立を実現させた。



(a) STD



(b) SE

図2 メータ外観

Fig.2 Meter appearances

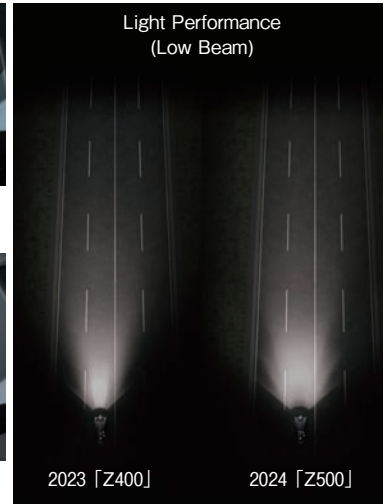


図3 配光性能の比較

Fig.3 Comparison of lighting performance

(3) 扱い易さ

車体についてもエンジン特性と同様に、扱い易さを重視した造り込みを行った。

(i) 軽量な車体

「Ninja 400」「Z400」の最大のポイントでもあった圧倒的に軽量なフレーム骨格を踏襲し、従来250ccクラス並みの重量をキープしており、取り回し容易性へと繋げている。

(ii) ライディングポジション

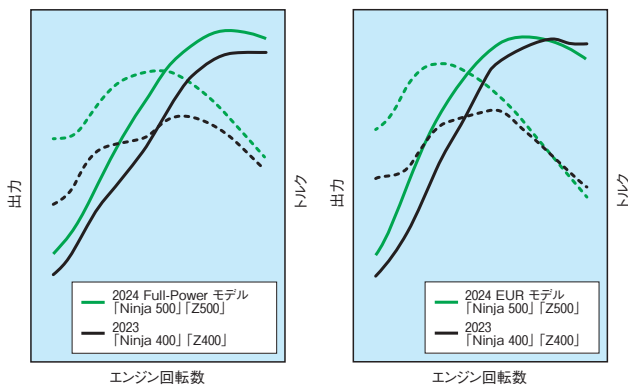
従来モデルでも好評である、過度にスポーティな前傾姿勢を避けた、オールラウンダーとして最適なさまざまなシチュエーションに優位性のある快適で懐の深いライディングポジションとしている。

あとがき

従来モデル同様、高性能かつ扱いやすさを両立させたモデルとして、エントリー層やリターンライダー、女性といった多くのユーザーに満足していただけることを確信している。

〔文責 カワサキモーターズ株式会社〕

MCディビジョン 第二設計部 牧原 稔〕



(a) FP仕様

(b) A2仕様

図1 性能特性の比較

Fig.1 Comparisons of performance curves

〔問い合わせ先〕

カワサキモーターズ株式会社

<https://www.global-kawasaki-motors.com/jp/inquiry/>